

2018年度 大学自己点検・評価(教育学部)自己点検・評価総括用シート 1

<教育学部の教育研究目標の進捗状況>

教育研究目標(タイトル)		評価指標	評価尺度	進捗状況
目標1	Mastery for Service の精神を「教育」に焦点づけ、世界市民の一員として、「人を育てる人となる」ことに使命を感じ、そのように自らを育てる力を育成すること。	(1)基礎演習での共通の自校学習メニューの確立とその学び合いのためのFDの定例化(宗教主事と基礎演習担当者との自校学習検討会の開催) (2)Mastery for Service の精神をどのように焦点づけるかについてのヒントを得ることができるような講演会・研究会の開催	A: (1)学期内2回 (2)年2回	2018年度目標値 C
			B: (1)学期内1回 (2)年1回 C: (1)学期内1回 (2)年0回 D: (1)学期内0回 (2)年0回	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) C
目標2	「教育とは何か」「人間とは何か」を不断に問いつつ、自ら理論と実践を往還し、教育学的思慮深さと自律的意思決定能力を有した教育者としての実践的行動力の基礎を育成すること。	(1)「協同学習室」の利用率 (2)教育学部内の他の授業実践を相互に知り、学び合うための公開授業や研究会の定例化参加率の向上	A: (1)70%以上 (2)年2回, 70%以上	2018年度目標値 C
			B: (1)60%以上70%未満 (2)年2回, 60%以上70%未満 C: (1)50%以上60%未満 (2)年1回, 50%以上60%未満 D: (1)50%未満 (2)年0回, 50%未満	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) B

<2016～2018年度の自己点検・評価の取組み総括>

総括1 <3年間の取組みによって改善したこと、向上したこと>

目標2については、「<2017年度> 聖和キャンパス2号館:リプラが完成し「協同学習室」の利用率はあがってきている。2017年7月のフリースペースの占有率は、全時間帯を平均して、51%であった。教育学部内の他の授業実践を相互に知り、学び合うために、FD研究会を開催(講師:時任 隼平先生)し、シラバス作成と授業方法について、教員間で話し合った。参加率は50%以上であった。<2018年度> 聖和キャンパス2号館:リプラが完成し「協同学習室」の利用率はあがってきている。2018年7月のフリースペースの占有率は、全時間帯を平均して、61.9%(2017年度:51%)と10%以上も上昇している。教育学部内の他の授業実践を相互に知り、学び合うために、4月にクリッカーやポートフォリオなどを学習するFD研究会を開催し、アクティブラーニングを意識した授業方法について、教員間で話し合った。また、7月は保育関連施策の動向と教育学部の動きについて講演があり、それぞれ参加率は70%以上であった。」というように、改善できている。

評価専門委員・所見記入欄:

■総括1について

- ・ 目標2について、協同学習室の利用率が顕著に向上していることが分かります。引き続き「学び合い」の取組みが活発に行われることを期待しています。(B)
- ・ それぞれの取組が具体的な成果を上げてきたことがよくわかりますが、数値の尺度以外の観点からの改善、向上面を伝える記述もほしいところです。(C)
- ・ リプラの協同学習室完成とFD研究会による相乗効果で学習室の利用率が向上し、FD研究会への参加率が上がっていることは学部におけるPDCAサイクルが機能している表れであり、今後も学部の教育の活性化が期待されます。(D)
- ・ 教育目標2の評価が上方修正されていることは、「協同学習室」の効果がよく現れていると思います。教育学部ならではの独自の施設、例えばぼぶら保育園、学修支援センター、地域幼児施設サポサポへの学生への関わりについて、教育学部のお考えがあればお聞きしたいと思います。(E)
- ・ 協同学習室の活用について、積極的な取組みが行われていることがうかがえます。(F)
- ・ 項目により、目標値を超える達成を示していることは評価できます。(G)
- ・ 引き続き PDCA サイクルを機能させることで、更なる伸展につながることを期待します。(H)